ものゝいふには、藏は土を主とし、家は木を主とす、去かれば木剋土の剋にあたりて、主人に祟りてあしきといふ、此義いかにや、予○新井白蛾答て曰、それは能々文盲なる人こそ聞受申べし、少しにても學問せし人などは、齒にかけていふ事も耻づべし、一向に取に不足事ながら、一寸辯じて見れば、先づ相剋する所と、其人のいふ所と相違す、木は盛勢にて、土は剋を受て衰ふ時、建たる家は、ます〳〵盛にして、藏は剋にあたりてこぼたれたるは、相應の事ならずや、家を毀て藏を建てたらば、木剋土の剋にてあしきともいふべし、是は取にたらぬ中の又取に足らぬ事の辯なり、右底の事をいふても間にあふべきは、田舍などの地面も廣く空地も有所にて、愚盲なるぢゝばゝの悅ぶべき事なり、三ヶ津などの繁昌至極の大都會にては、間にあはぬ事なり、都にては、家を毀て藏を建、または藏を除きて家を建て、住居勝手の好やうにして住が善なり、或人又問ふて曰、居宅より、戌亥の方に隱居家を建るは甚だあしゝ、且又主人に祟るなり、それも本宅ならば宜しといふ、是又如何、予答ふ、これも又大痴癡なり、夫先天の方位、乾の父は西南に位し、坤の母は東北に位す、代を讓りて隱居するに、乾の位に離を置、坤の位には坎を移し置て、父の乾は西北の間戌亥に隱居し、母の坤は南西の間未申に退く、是後天の易位なり、卽ち乾をいぬゐと訓するに非ずや、是も戲れにいはゞ、本家を建るはあしけれども、隱居には善といふべしと笑ぬ、

〔東牖子〕家相大に流行し、都鄙賢愚これに著する人多し、按るに、劉琦が釋名に宅托也、人之倚處也とて、必竟人の入物、或は外箱などゝおなじく、又刀劍の鞘柄のごとく、何程外飾見事に金銀を鏤たりとも、身鈍刀ならば、何の用にか立んや、○中略、爰に予○田宮宣遊歷中に、おかしき話有、和州龍田なる一商賈、家相を改んと、態々浪花より家相者を招き、差圖を請て宅を造作し、十分の吉相となして、兩三ヶ年の間、福今や來らんと待うちに、身上不如意になり、剩逐轉し、家斷絶に及びぬ、又予が寓せし隣村に、同く家相者に指圖を受て、門を建變、土藏を挽きて、相者の意に任せ、吉相滿りと